

環境文明 21 での活動を通して

遠藤 瑞季 (えんどう みずき / 2023 年度インターン生)

皆さまからみると勉強不足かつ言いたいことだけを書いた文章ですが、8ヶ月間のインターン活動を通して得た「学び」と「自身の課題」を中心に報告させていただきます。

「学び」について、経済と環境のバランス感覚の重要性を挙げます。環境文明21のインターンに参加した理由は、「『経済』ではなく『環境』を主軸に据えた持続可能な社会の形成」を目標としている点が、「環境問題の解決と豊かな経済社会の実現の両立」を理想状態としている自身の考えと少し異なるため興味を持ったからです。結果として、活動を通して自身の考えである「環境問題の解決と豊かな経済社会の実現の両立」を理想状態とした方が望ましいと考えています。ただし、どちらにも偏らずバランスを意識した取組が重要であるという結論を得ました。両立を理想状態とした方が好ましいと考える理由として、「実行力」があります。「『経済』ではなく『環境』を主軸に据えた持続可能な社会の形成」には、資本主義社会である現代においては、「経済」より「環境」を大切にするという、価値観の根源的転換を全世界で実現しないとイケません。そして、価値観の根源的転換を待つ間にも地球温暖化は進行し、手遅れの状態になる可能性があります。それよりは、環境価値を人間の活動に反映するために、例えばCO₂排出量を削減する行動に金銭的価値や何かしらの価値をインセンティブとして与え、意識せずとも環境に良い行動を行う社会を形成する方がより実行力があると考えます。この実行力の小ささを指摘した際、「地球温暖化が進行し世界がディストピアの状態になった際、このようなことを考えていた人もいたのだという英知を蓄積し

ておく」と言われましたが、これでは、問題の解決になっていないのではないかと感じたのが正直なところでした。しかし、豊かな経済社会の実現を追求するあまり、将来の技術革新を過信しCO₂排出量を削減する取組に本気で取り組まない現在の社会構造も問題なことは事実です。ゆえに、経済にも環境にも偏らずバランスを意識した取組が重要だと考えます。そのためにも、多様な分野での学習を重ね、思想や権威に寄らない科学的根拠に基づいた言動を心掛けたいです。

「自身の課題」について、「多面的知識を持った上での自身のスタンスの獲得」が挙げられます。藤村代表、加藤所長と自身では環境問題に対するスタンスが大きく異なるため、「勉強不足」と指摘され、自分の考えが上手く伝わらない時がありました。そのためこれからは、環境問題に対して分野だけではなく、考え方の面でも多面的知識の獲得を目指します。ただ、様々なことを勉強すると、特定の問題に対して意見を求められた際にあれもこれもと考えてしまい、どっちつかずの意見になる恐れがあります。バランス感覚が大事だと前に書きましたが、人と議論を行う際には自分のスタンスを一定程度持った方が、話が進みやすいと様々な人の議論を聞く中で感じました。そのため、色々検討した上での自身のスタンスを持つことを意識しつつ、今後学習を重ねていきたいと思えます。

インターンシップでは、自身がこれまでいた環境では得ることができない重要な学びを得ることができました。本当にお世話になりました、ありがとうございました。